



元気おおとよ新聞

明けまして おめでとう ございます。

大豊のみな様にはご家族で健やかなお正月を迎えられたことと思います。
本年が皆様にとって幸多い年でありますよう心からお祈り申し上げます。

本年も「NPO法人元気おおとよ」ならびに「元気おおとよ新聞」へのご支援やご鞭撻、そしてご愛読をどうかよろしくお願いいたします。

昨年は、本当に大変な年でした。突然の新型コロナウイルスの発生で経験したことのない出来事が相次ぎました。今年はワクチンをはじめ総力をあげての鎮静化への対応が求められます。

さて、私たちの取り組みも制約を受けながらも移住支援や空き家の調査、イベントの開催、研修会への参加などの活動を通じて一定の成果をあげることが出来ました。今年も町をはじめ各組織や諸団体との連携を一層深めながら更なる飛躍をめざして、「つなぐ、つたえる、たすけあう」を旗印にがんばりたいと思っています。本年もどうかよろしくお願いいたします。（理事長 下村守正）

移住者紹介



まつした やえこ
松下 八重子 40歳

今回の移住者は愛媛県から、昨年5月に移住されてきた、松下 八重子（まつした やえこ）さんです。出身は東京都、これまで様々な土地での経験を得て、自然の中での暮らしに憧れ、大豊町へ移住されてきました。そんな彼女にインタビューをしてきました。

大豊町に来るきっかけや、それまではどんな生活をされていたか？

出身は東京ですが、大豊町に来るまでは、愛媛県に住んでいました。それまでも山梨や長野にも住んでいたことがあります。東京にいるときは販売管理など、事務系の仕事をしていたのですが、自然や農業に興味があって、農業ができる場所を探していました。前々から西日本に興味があって、愛媛の自然農法を営んでいるところに勤めたのですが、主な仕事は販売管理で農業にはあまり携われず、愛媛は意外と都会だったので、より自然の豊かなところで農業を中心とした生活がしたくて移住先を探していたなかで大豊町が目をつけたのが始まりです。

問い合わせをして、最終的に元気おおとよの野田さんと繋がったことが大きかったです。対応がスピーディーで移住に関して熱意を感じました。それに、私の住みたい町のイメージと大豊町が合っていたのが大豊町に来るきっかけになりました。

農業にはどうして興味を持たれたのですか？

東日本大震災があって、食の安全を考えるようになったのがきっかけです。今は半自給自足を目指していて、まずは自分の食べるお米は自分で作りたいと考え、今年は米づくりに挑戦してみました。そして、初めは何もないところからやってみたくて、無農薬無肥料、手植え手刈り、脱穀も足踏みでやって、とうみを使うところまでは完全な人力で米を作りました。それでなんとか約60kgの米を収穫できて、初めて自分の力で作ったお米を食べましたが、やはりとてもおいしかったですね。

今後は肥料や栽培方法のことも考えて、収量を増やして家族にお米を送ることが目標です。

趣味などはありますか？

昔はスノーボードが好きでゲレンデで働いたこともあります。今は辞めてしまいましたが、今はものづくりが好きです。手芸やキャンドルづくり、草木染めやフェルトなんかをやったりしていますが、中途半端で終わっているものもありますね。温泉旅行も好きで、これまで住んだところでいろんな温泉に行っていました。

大豊町に来て感じることはありますか？

大豊町の人には生きるためのスキルがすごいと思います。なんでも自分でやっている姿にいつも感銘を受けています。

今後の松下さんの目標などあれば教えてください。

今は農家でバイトをしている状況ですが、自分でも農業を始めたいとも考えています。ご近所の方にもすごく良くしてもらっているので、自分が作った野菜をお裾分けできるようになりたいです。

また、自分が百姓と言えるようになりたいと思っていて、以前勤めていた農家さんの言葉で百姓とは百の仕事ができるから百姓なんだよと言われ、それくらい色々なことができる百姓と言う生き方に感銘を受けました。自分もそうなれるようないろいろな経験を大豊町でしたいと思っています。

以上、松下さんのご紹介でした。お話を聞いて、考え方や彼女の目標が大豊町という町にぴったりだなと思ったのが一番の感想です。いろんな事に興味があるという事ですので、様々なところで活躍して、この大豊町で、百姓になるという目標を達成してほしいですね。（猪野大）



そば物語～収穫＆脱穀編～ 11月15日～12月6日

今回はそば収穫と脱穀の報告です！

今年初めて挑戦した畝立てと3種類のソバ蒔き。その良さにみんなで感動しました！

今年は台風も少なく、ソバが成長するのにはとても良い環境の中、畝立ての効果もありソバが立ったまま収穫できることのなんと嬉しいこと。

ソバの幹は細く中が空洞になっていて、強い風が吹けば簡単に倒れてしまいます。今までは、台風の影響や畝立てをしていなかったせいもあり、倒れたソバを地道に収穫していました。そのため収穫には2日かかった時も…

今回は参加者含め10人ほどの収穫で、半日で終了。みんなびっくりでした。

2週間ほど乾燥させた後、早速脱穀！

参加者は足ふみ脱穀機初体験でした！最初は足の動きと手の動きの違いになれず苦戦していましたが、慣れるとどんどん脱穀していました。



ピックアップ  おまとよ

収穫量は約38kg。たくさんあるように見えて、脱穀、製粉すると少しになるのがソバです。ソバ作りは本当に大変です…



突然ですが、ここで問題です！

ソバといえば国産！とのイメージが強いですが、日本での自給率はいくらでしょうか？

正解は…24%です！（平成25年度現在）

実は国産のソバは貴重なんです！そんな貴重なソバ作りはぜひ残していきたいですね！

私たちはこれからも大切なソバ作り文化を残していけたらと考えています！

以上が今回の報告でした！（中平）



次回のそば物語～そば打ち編～は令和3年2月7日の予定です。

●募集！空き家物件

貸してもいい、売ってもいい、という物件はありませんか？
元気おおとよが、荷物の片付け＆処分のお手伝いと
賃貸希望者・購入希望者をご紹介します。
お問い合わせは、080-8635-2253（野田）まで

高橋医院・大田口医院（その1）

令和2年の9月に2度ほど大田口医院で高橋雄彦先生にお会いしてお話を伺いました。ご尊父の康彦先生の思い出話を筆頭にたくさんのお話を興味深く楽しくお伺いすることができました。内容がテンコ盛り過ぎて、どの話をみなさんに紹介したらいいのか、ずいぶん迷いました。

<大先生、思いのひと言>

まずは、私にとって最も印象に残ったことのひとつ、地域医療に関わる医師としてのお二人のずいぶん前のやり取りから始めましょう。ちなみに康彦先生は地元では「大（おお）先生」と呼ばれていました。話の中で雄彦先生からたびたび出たのが「父を見て育った」という言葉です。後述しますが、この言葉にはいろんな意味が含まれています。そして、幼少の頃、大先生に折に触れ言われたのが「医者になるか土方になるか」だとのこと。表現はきつく感じますが、後を継いでほしいという強い願いを感じ取ることができます。雄彦先生自身も、なんとはなしに医者になったら大豊に帰ろう、と子ども心に思っていたそうです。

土佐中高校を卒業し医学の道を歩み始めると「お前が医者になってくれたら何も言うことはない」。そして、大学の時には「お前と1日、1秒でもいっしょに仕事ができたら言うことはない」とよく言われたそうです。親として自分の道を継いでほしい、そして、医師として自分の残した跡を継ぎ、続けてほしいという大先生の気持ちや望みが伝わってくる言葉です。

また、「オヤジのおかげ」という言葉もよく出てきました。これも後で触れますが、私にはその言葉を後生大事に覚えており、さらにそれを自身の仕事の指針のようにされている雄彦先生に感謝と敬意の心境でした。

<大先生、大豊に開業>



マージャン大会、トロフィの左が大先生、前列右端が秋山信吉先生



さて、ご存知の方も多いと思いますが、大先生は請われて本山から落合診療所に移って来られ、高橋医院を開業しました。知人からは「大豊はめんどいけん、やめちょき」と言われたそうですが、大豊が気に入って、昭和42年には落合に高橋医院をほとんど自費で開きました。仕事ばかりの生活で、医学書とにらめっこをしながら、難しい病気の患者さんに対応している姿が印象に残っているとのことでした。息抜きは競輪とマージャンだったようですが、どちらも仲間と一緒に楽しむことが好みだったようです。

これは当時の看護婦さんに聞いたことですが、現在と違って道路の整備状態や車の機能も十分でない中、往診を行っていたということです。冬の時期にも依頼があれば当直の看護婦さんをお供に、自家用の車を運転して出向かれたそうです。西峰から電話があった時など、暗い夜道を懐中電灯を頼りに歩いたそうで、さすがに驚かされました。昔の山間地域ならではの医療風景で、皆さん、さぞありがたかったことだと思います。

さて、残念ながらここで紙面が尽きてしまいました。後は次の機会に掲載とさせていただきます。（鄙）



看護婦さんと集合写真、左から2人目が大先生



大先生に抱っこの雄彦先生